

第5話「まさか！？ 私が乳がん…」

患者本人（真由美）のモノローグ

要精密検査。

よう・せい・みつ・けん・さ。

それが、ママ友の付き合いで受けた、久しぶりの乳がん検診の結果だった。

私には、乳がんの疑いがあるらしい…。

夫や子ども、高齢の両親には、心配をかけられない。

私は、家族が留守の間に、パソコンで病院のホームページや

闘病ブログまで読み、情報収集した。

でも、どんなに探しても、これが正解、これで大丈夫という答えは出てこない。

真由美「もうイヤ…。 わからない！ 私、どうすればいいの？

精密検査だって、どこの病院に行ったらいいの…？」

私は気持ちを落ち着かせようとコーヒーを淹れた。

情報はたくさんあるのに、私の求める情報に出会えない…。

そんな時、目に入ってきたのが、「がん相談支援センター」という名前だった。

厚生労働大臣が指定した、がん診療連携拠点病院などに設置された相談窓口で、電話相談もできると書いてある。

真由美「もしもし。

あの…、そちらで病院選びの相談もできますか？」

相談員「はい。お手伝いいたします。どうされました？」

真由美「私、乳がん検診で、精密検査を受けるようにと通知が来たんです。

自分でも色々調べたんですが、調べれば調べるほど迷ってしまって…。」

相談員「色々な情報がありますからね。」

真由美「そうですね。何が正しいのか分かりません。」

相談員「では思い切って、ネットで調べるのをしばらくお休みしましょう。」

真由美「えっ!？」

相談員「もう十分にお調べになったと思いますよ。あとは私が、疑問や質問に、

お答えしますからご安心ください。」

真由美「は…はい！ ありがとうございます！」

相談員「まずは、検査する病院を考えましょう。」

検査後の治療にも関わってきますから、病院選びは大切です。」

真由美「はい。患者数が多い実績のある大きな病院がいいのか、

有名な先生がいいのか、近所がいいのか、決めかねていて…。」

相談員「乳がんの場合、放射線治療や抗がん剤治療を、

通院でおこなう場合がありますので、

お近くの病院を選ぶメリットは大きいですよ。」

ネットの情報に翻弄されて不安と焦りでいっぱいだった私。

でも、直接、相談員さんと話したことで、心が軽くなっていくのを感じた。

窓を開けると、気持ちの良い風が入ってきた。